



平成21年 4月15日



まつかわ百景 ③〇

「円通庵のしだれ桜」

その優雅な姿は、往来する人々を見守っているかのようです。

2面	上大島文化芸術祭
3面	わらべうた講演会
4面	生キャラメル教室
4～5面	各団体会員募集
6面	スポーツ情報
7面	婦人会の資料について
7面	埋蔵文化財
7面	ひとすぼっと
7面	短歌・声
8面	生け花作品集・べんべん草

「つまずいたっていいじゃないか 人間だもの」：相田みつをさんの有名な一文です。人間は完璧な生き物じゃない、たまには失敗もするんだというこの言葉によく励まされます。

相田さんの言葉は他にも様々ありますが、どれも「生きるってなんだろう」「人間ってなんだろう」という視点で物事を捉えているところに惹かれるような気がします。

21世紀を迎え、新たな情報機器の発明や交通機関の発達など便利な世の中となりました。その一方で、派遣労働社員の解雇、うつ病や自殺などの精神疾患、振込め詐欺等、テレビや新聞では暗いニュースばかりが飛び込んできます。公民館は今、一人ひとりが人間らしく生きることを学習権として位置づけ取り組んできた社会教育のあり方を、もう一度見つめなおす必要にせまられているように思っています。

人間は一人では生きていけない社会的な動物であるといわれます。『二十一世紀に生きる君たちへ』の中で司馬遼太郎さんは、「人間は、社会をつ

主張

人間だもの

くって生きている。社会とは、支え合う仕組みということである。(中略)：助け合う、ということが、人間にとって大きな道徳となっている。助け合うという気持ちや行動のものは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることにいつてもいい。やさしさ、

言いかえてもいい。と述べています。「いたわり」「他人の痛みを感じる」と「やさしさ」といった感情を一人ひとりがしっかりと心に根付かせながらたのもししい人格を形成し、互いに支え合う仕組みをつくっていくこと、これが「人間らしさ」なのかもしれません。

公民館はそこに集う人と人が出会うことで、生活・暮らし・地域・社会を基盤に人々がつながっていく場です。自分の視野でしか考えられなかったものが、世代や年齢・性別、人種などをこえて集まった人と

知り合うことで価値観が広がり、心を動かされたりといった可能性を秘めているように感じます。このようなつながりを通して「人間らしさ」を育んでいくことが、今日的な公民館の大きな課題であると思っています。

公民館主事 新井 直彦



平成20年度
**上大島
 文化芸能祭**
 3月6日・7日・8日



平成20年度上大島文化芸能祭が、3月6日(金)、7日(土)、8日(日)に上大島地区公民館において開催されました。

展示の部は全日程開かれ、演芸の部は8日午後1時より講堂で行われました。

演芸の部は、第1部9演目、第2部10演目の合計19演目があり、歌謡と踊りなどクラブ活動の発表がなされ、演示のたびに約20名の参加者、聴衆の拍手喝采を浴びました。

**上大島地区公民館
 クラブ発表雑感**
 堤原 大場 幸男

3月6日7日8日の3日間で上大島地区公民館のクラブ発表会と、文化芸能祭が行われ、保育園児からお年寄りまで、多数の展示作品が展覧されました。

園児の作品は、全員が同じテーマで節分祭の豆まきの絵でした。子どもらしい奇抜で、十人十色の個性のある作品ばかりでした。中高年の方々の作品が多い中で特に90才に近いお年寄りの水墨画と般若心經も立派なものでした。特に般若心經は300文字余の筆字が

バランスよく丁寧にかかれていました。努力さえすればあの年齢になつてもあのようにしっかりと書いた字が書けるのかなという感慨でいっぱいでした。俳句、短歌、川柳等の作品も沢山の出展がありました。

私には、このような事に素養がありませんが、日々の暮らしの中の身近な題材を飾り気なく素直に表現してあり、好感のもてる作品が沢山ありました。手芸も中高年の女性の皆さんにより、手毬の刺しゅう、編物、ポシエット等、手間暇と根気のいる女性ならではの作品が沢山出展されました。

定番の生け花、アレンジフラワー、書道等女性の独壇場であり、立派な作品が多数出展されました。総じて女性の皆さんの元氣と力強さを感じられました。

保育園児より中高年迄と、はば広い皆さんの出展という事で地区公民館らしいクラブ発表であったと思います。



まとめとして

20年度の演芸の部は、時間の配分を考えて、内容を濃く質を高めた芸能祭を目指したそうです。

主事の林正成さんは、今回の文化芸能祭を振り返り、「各クラブの発表はどれもよく練習がなされており、素晴らしい演芸発表となりました。」とおっしゃり、部員も楽しみなが、区民の皆さんにもよろこんでもらえた、と話をされ、「芸能祭のコンセプトは、日頃の仕事の労をねぎらい、区民の皆さんに息抜きと、笑ってすごせる時間を提供すること。」と、主催した側の思いを語られました。

上大島地区公民館長の西尾雄さんは、「演芸の部では1年のクラブ活動の結果が演示によくでたと思います。展示の部もプロ顔負けの活動の成果ができました。来年度以降も引き続き、公民館事業を展開していきたい。」とおっしゃっていました。

参加した皆さんには、演示、展示を通して上大島地区のクラブ活動の内容がよくわかったのではないのでしょうか。地域社会の機能と活力の維持が叫ばれる昨今、大勢の区民が参加した文化芸能祭は、上大島地区の地力と地域の活力を充分に感じさせる内容となりました。

松川町図書館

わらべうた講演会

いもむしごころごろ



は〜い！よくできたねエ



いないいない…ばあ〜。



講師の小林衛巳子さん

松川町図書館主催の「わらべうた講演会」が3月14日に松川町公民館で開かれ乳幼児から高齢者まで70名余りの皆さんが参加されました。講師の小林衛巳えみこさんは16年前わらべうたを取り入れた遊びの講座「まめつちよつちよ」を設立。その後わらべ唄保育研究会を設立されました。始めに薄くて柔らかで軽いスカーフを使って



昔を思い出して懐かしいなあ。

次に子どもを膝に乗せて「あっちゃあ投げこつちやあ投げ最上川さ、じゃつぽくん」と唄いながら膝の間に落とし

「にぎりパッチリ たてよこひよこ(かえる)」と唄いながら手の中に丸めたスカーフをゆつくり出してみせます。「たんぼばたんぼば」とんでけー」と唄いながら思いきり吹いて遠くへ飛ばします。どちらも子ども達は大喜び。昔を思い出して懐かしいなあ。



みんな繋がって長くなります。



じゃんけん、じゃんけん、勝ったかな？

だんだん速くしていくと、ますます子どもの歓声が大きくなります。子ども達の睡眠習慣は親の生活に左右されやすいので寝る前の儀式としての指遊びに「子ども寝ろお医者寝ろ背高寝ろオラも寝るから我も寝ろ」小指からだんだん折っていく何度も繰り返し返して睡眠習慣をつけると良いそうです。「子どもはお母さんやお父さんの五感を感じとってまねをしていきます。唄のリズムで楽しく幸福しあわせになれるよう子どもにとっての宝物が残るようにしてやってほしい。」小林さんの希望のことばで講演会は結ばれました。



図書館主催の生キャラメル教室は大好評につき今月2回目の開催となった。講師の山崎武夫さんは手作りの達人。今話題のスイーツも山崎さんのレシピで我が家の味に：大きくて深い鍋に材料を全て入れ、強火にかける。そして木べらで混ぜる。手を休めたら焦げてしまふ！…途中吹きこぼれそうになっても

図書館 生キャラメル教室

3/9 and 3/28 AM10:00~

動揺せず火力を調節して続行あるのみ。参加者一同夢中に取り組んでいた。約一時間後、



完成。家に持ち帰り切り分けるのが楽しみだ。レシピなど、詳しくは図書館までお問い合わせを。新年度には、山崎さんによる燻製教室を開催予定。皆さんも一緒に、手作りの豊かな食生活を楽しみませんか？



調理教室は甘い香りでもいいに。クッキングシートを敷いたトレイに流し、冷やし固めて



会員募集

ほーい、いっしょに やらまいか!!

ボランティアグループ つとめ児童会の活動と会員募集

松尾寿美代

私達いとし児会の活動は、今のところ中央公民館2階の大広間で午前10時から12時まで、若いお母さん達の健康教室のある時にお子守を手伝っています。また、子育て支援センターのイベントなどにも協力しています。始めた当初はつい分多勢の方達が協力してくださいましたが、年齢的にも高齢化が進み現在5名で頑張っています。月に1回程度のボランティアですが、都合の悪い時もありたりして余り役に立たない日があり残念です。私達はなんとかしてメンバーを増やせないかと思いい前には有線放送で募集したり、第27回の福祉を考える会にもお願いをしてみました。松川町もたしかに出生数が減少し高齢化が進んでいる様です。こんな折、町では「ずっと住み続けたい、住んでみたい町まつかわ。」を提案した様ですが、松川町で子育てが出来て良かったと喜んでもらえる様育児に協力して下さる方々をお待ち致しております。どんなボランティアもそうだと思いますが、協力してもいいなあと思っても「必ず当番や係が来るから嫌だ。」という事があるように



4 松尾まで。

す。私達、いとし児会では1回きりでも、都合のよい日だけでも結構です。連絡くださったれば活動日時をお知らせ致しますのでお気軽に御参加してほしいと思います。私達は若いお母さん達がこの町で生活して下さるだけでも嬉しいし、私達にお子様をあずけて勉強している事も嬉しいのです。私達が言うまでもありませんが、今の時代、子育てをするお母さん達も大変です。今の時代を背負って行く赤ちゃん達に少しでも心豊かに育つてもらいたいと切に願っています。尚、男女共同参画という事で男性の方々にもぜひ御参加をお願いしたいと思います。平成21年度の係は電話番号36局の266

2.3gの会の紹介と活動会員募集

代 表 橋場善雄

2.3gの会はS61年に発足しました。当時の町の保健師さんが、高血圧でたおれた人達の再発防止の為に健康教室を始めてくれました。月に一回開いてくれて同時に栄養士さんにも協力してもらいバランス食もして参りました。最初のバランス食の塩分が2.3gありましたので会の名前になりました。

なくなり、80代半ばとなる2人のみでボランティア数名の協力を借りて続けております。3年前から後継として1名会員の資格も取りました。

当初は熱心な保健師さんの進めもあり20数名の会員もおりました。その内健康教室だけでなくリハビリと社会参加を兼ねて石けん作りをしてみたらと云う事になり、事務局は社協にお願いして当時のコーディネーターの方に参加してもらい、S62年に石けん作りを始めました。廃油集めから全部の事をコーディネーターにたよりの石けん作りの始まりでした。作業場もなく役場の軒下や農家のハウスを借りたり、社協が新築してからは地下室を一部借りて作りました。いっしょに石けん作りの会が2.3gの会となりました。

長年に渡り町に陳情してきた作業所も11年前に(ふれあい工房まつかわ)ができ、町民グループ皆が使う建物として独占する事のない様にと渡されました。安心して雨、風、寒さに関係なくやっております。(各グループの会合、料理教室、消費者の会のボカシ作り等)

当時の保健師さん達も退職されてしまい、同時に健康教室も消滅してしまい、会員も10数名は亡くなり数名は再発してこれ

当時の石けん作りも昔ながらの作り方(中和法)でかんとんにだれでも作れましたが、元が廃油ですから匂いが悪く、よければおちてもよろこばれなくて作る石けんもたまだけのありさまで、各先進地の視察をする内にリサイクル石けん協会を知り、協会で作られた(ミニプラント)石けん製造機で作る石けんを見て、悪い匂いもない粉石けんにおどろきと喜びでした。早速石けん協会にも入り、(ミニプラント)(粉砕機)共に入り工房まつかわにて、松川の石けんとして順調に製造されております。

ミニプラントは熱処理で苛性ソーダ溶液を入れ、反応させ炊き込んで3時間半〜4時間かけて作り上げます。完全に石けん化させる事によりいやな匂がなくなりです。

石けんの歴史は2000年〜5000年と云われております。合成洗剤は約60年の歴史で、化学洗剤だから人体への悪影響が最近になってわかってきました



た。同時に自然界にも悪く、特に湖のある地方では石けんの使用に力を入れております!!市町村によつては行政が主体となり廃食油の収集から石けん作りまでしており、子どもさんが生まれるとお祝いとして粉石けんと固形石けんを送り、若いお母さん達に子供の為にも石けんを使うようよびかけております。
松川町の粉石けんが、昨年10

月から重曹入りの新しい石けんになりました。今まで以上によく仕上がります。ふんわりと静電気もおきにくくよこれおちはもちろん良くなりました。固形石けんも交互に作っております。たちくずがでますのでお立寄り

下されば無償でさしあげております。毎週水曜日が、石けん作りの日でありますから午前中に、それでも気軽に見学にきて下さい。見学されて希望をもたれ会員になって下されば有難いと思えます。会員になると10回以上体験をして1回以上地域セミナーに出席すると指導員の資格もとれますので1人でも多くの方が見学に来て下さる事を希望します。今迄に町では二つのグループが研修にきてくれまして御指導して作りできた石けんは持ち帰り分けて自分で使ったり知人に分けたりしております。

H18年には飯島町から10名研修に2回に分けて来まして、指導をしました。今では協会にも入り町をあげて作っております。昨年は地域セミナーが有り飯島町からも行きました。年に1回は社協の協力で出席しております。

今、だ多くの方々が石けん作りを知らずにおおると思いますが、町の皆さんの協力をお願いして

環境改善の為に多くの人達に知ってもらい石けんを使って下さる事をお願いします。

材料の廃油は家庭から出る廃食油が一番良いのでママに工房までおだし下さい。原則は水曜日ですが、何時でも可能です。

現在石けんを販売している所を記して置きます。(社協)JAリカ(ハローミヤ)(すまいる)(JAおよびファーム)(清流苑(田島ファーム)(ふれあい工房 水曜日のみ)

入会希望の方

社会福祉協議会 鎌倉さん
TEL 36-3778
または
代表 橋場善雄さん
TEL 37-2255
までご連絡ください。

スポーツ

**松川町混合ダブルス
バドミントン大会**

3月8日(日) 松川町町民体育館において松川町混合ダブルスバドミントン大会が開催された。

結果は次のとおり。

Aブロック

優勝 小原 拓也

準優勝 水田 友美
林 元彦
林 由理梨

第3位 原 一典
酒井たえこ

第3位 宮澤 優一
竹村 真澄

Bブロック

優勝 中山 仁

準優勝 松下 睦規
魚田 大郎

第3位 林 加菜子
知久 仁司
小原 梨紗

第3位

林 宗広
北沢 真希

Cブロック

優勝 吉川 貴尋
小原 鈴子

準優勝 沢田 知樹
矢澤 涉恵

第3位 北島 義雄
山岸佐貴子

第3位 大久保昌宏
林 美奈子

Dブロック

優勝 大沢 慎哉

準優勝 大沢 祐子
松下 東宜

第3位 高木久美子
宮下 幸久

第3位 大島 美咲
下沢 清
山口 忍

まつかわ大学

第4期生募集

まつかわ大学は本年度で4年目を迎えます。みんな楽しんでみながら一緒に学びませんか。

《第1講座》 6月20日(土)

「道を極めた男たちの生きざまに学ぶ」アナウンサー 席から見た45年」
日本福祉大
生涯学習センター長

杉山 邦博氏

《第2講座》 8月30日(日)

「おらあ 日本のマンマが食いてえ」
農業講師 宝井 琴梅氏

《第3講座》 12月5日(土)

「かけがえのない命」
元学校長 木村 喜久雄氏

《第4講座》 2月27日(土)

「心を動かす言葉」
千葉市女性センター館長 加賀美 幸子氏

※時間はいずれも

13時30分〜15時00分

※入学金 年間1,500円

申込先 松川町中央公民館
36-2622

新資料 百年前の婦人会資料

「第一回大島区婦人会記事」

大島神社舞台の筆筒より発見(町史編纂より)

大島神社舞台の古い筆筒の中に明治時代以降の雑書類が保存されていました。長いこと整理されたことも無く、筆筒の中はネズミの巣と化し、ボロボロになった書類も少なくありませんでした。縁があつて筆筒の中の資料を調査・整理することになり、一つ一つの書類のほこりを払って調べたところ、今まで知られなかつた大島村の貴重な資料が見出されました。

資料の中で特筆されるものは、明治43年(1910)3月19日付けの「第一回大島区婦人会記事 婦人会主唱者と墨書された綴りです。記されている内容は、まず主唱者として松尾伝吉・矢澤政太郎・小木曾平吉ら男性9人の名が記され、次いで来賓・講師として、学校長の久保田治一郎、訓導の倉田正、巡查の山崎宗十、僧侶の中亀彦ら4人の名、それに役員の手塚ひろゑと羽生いまみの名があります。

手塚と羽生のみが女性です。この時、主唱者が寄付した金3円90銭は海蔵寺席料・菓子代・茶代・慰労会用酒代・同着代に支出され、「収支過不足ナシ」と結ばれています。これだけの記録の資料ですが、実は大島区婦人会結成時の貴重な資料なのです。

大島村の婦人会は明治35年(1902)9月に会員17名で結成されていますが、当時、正式な名称は不詳です。活動内容は婦徳の修養や養蚕業に関する事業といわれます。

今回見出された資料は、残っている婦人会資料としては最も古い100年前のもので、記された内容は、大島区婦人会を海蔵寺で開会した時の出席者と経費・寄附者・支出を記したものです。これは大島区婦人会の設立を示すものとみられます。即ち、これより既に8年前の明治35年に大島村の婦人会は設立されています。だから、地域組織として区単

位に婦人会が設立された時の記録と考えられます。そのため「第一回」、あるいは「主唱者と記されているのです。主唱者はいずれも男性で女性の名はありません。よって大島区婦人会は婦人の自主的な設立ではなく、村・区など上からの主導による設立であったことを示しています。役員として2人記された女性は、村婦人会の正副会長であつたものとみられます。大島区、即ち上大島の婦人会の設立総会が海蔵寺で開かれた時の記録なのです。主唱者は村や区の有力者、来賓といえば、当時は校長・巡查・郵便局長というところでしょう。

◆ ◆ ◆
婦人会といえは「自主的・民主的な組織」と思いますが、それは戦後しばらくしてから婦人会員自らが創り上げてきた戦後の新しい婦人会です。

◆ ◆ ◆
婦人会の前身とされる愛国婦人会の創立は明治34年で、傷病兵や遺族の保護を目的として奥村百合子が軍部や近衛篤磨らの後援を受けて創設しました。昭和6

年(1931)には家庭教育振興と家庭生活改善を目的に政府主導で大日本連合婦人会が全国的に組織され、「銃後の任務遂行」が強化されました。翌昭和7年には大阪国防婦人会が結成され、やがて大日本国防婦人会に発展します。太平洋戦争当時、愛国婦人会・大日本国防婦人会ともう一つ大日本連合婦人会の3団体が存在しましたが、構成員は同じで、一人の婦人が3つの婦人会に所属するという状態でした。昭和17年、軍部はこれら3団体を統合して大日本婦人会を結成し、「銃後を護る婦人」として20歳以上の婦人を強制加入させ、国民生活統制の機関としたのです。戦争末期の昭和20年、政府は本土決戦に向けて大日本婦人会を国民義勇戦闘隊に吸収・統合

しました。このように戦前・戦中の婦人会は体制の指令により与えられた目的に向かって動くという活動であり、戦後に求められた自主的集団ではなかつたのです。大島神社の資料に見られる如く、男衆が主唱者となつて地域婦人会を発足させたのでした。

◆ ◆ ◆
余談ですが、戦争末期に婦人会はじめ各種の民間団体(非戦闘員)を国民義勇戦闘隊に編成したことが、後にアメリカの無差別爆撃の口実を与えらるることになってしまいました。

◆ ◆ ◆
大島神社資料の中には戦後の青年学校設立趣意書などもあり、機会があつたら公表したいと思います。これら資料は大島区より資料館に移管されています。(資料館・酒井)





気持ちよく使ってもらいたい

公民館・体育館の管理人 小平純久さん

(古町北部)

4月より中央公民館・町民体育館の管理人として着任された小平純久さん。地区のスポーツ大会などで施設を利用することが多かったそうです。管理する立場になつての



思いをお聞きました。

町民のみなさんに気持ちよく使っていただくためには清掃をして建物をきれいにすることも大切です。が、私はもう一つ、しつかりとあいさつをして気持ちの良い対応を心がけたいと思っています。

着任2日目に遅番で夜間の担当をしていた時のこと。小学生のバレーボールクラブのみなさんが練習終了後、私の前に一列に並んで元気よく「ありがとうございます」とあいさつをしてくれました。あ、本当にうれしかった。



「管理日誌」を拝見。清掃や点検、利用者の対応など仕事内容は多岐にわたり、ほぼ分刻みで細かい作業をこなしていく

短歌

膨らみ始む 山田伊知子

「鬼は外」福は内とふ孫の声の響けば今年も佳き年ならん

たどたと作りくれたる女の孫のグラタンなかなか塩梅のよし

「はいどうぞ」孫のくれたるお手紙はまつ毛の長い私の顔

温暖化か雪の少なきひと冬をピオラはあまた咲き続けおり

如月の雨の雫を光らせて林檎樹の芽膨み始む



すぽとリーダーバンクのご利用を！

平成4年に学習や研修・研究・スポーツなどあらゆる分野の学習活動支援をするために地域に在住する指導者を登録する「松川町リーダーバンク」の設立、平成5年には

登録者名簿が発行され町内の各団体や公官庁等に配布し利用されてきました。その後、名簿の加除のため3回の改訂をしてまいりましたが、ここ

数年は利用がほとんどないのが現状です。

教育関係・歴史・芸術・文化・自然科学・環境問題・健

康・福祉・スポーツ・IT関係などあらゆる分野で、生涯学習の普及に熱意のある方が講師として登録されています。学習活動に指導者が欲しい時

の活躍の場を広げていただけるよう、リーダーバンクの積極的活用をお願いします。登録者名簿が必要な方・団体がありましたら、中央公民館に

残部が若干ありますのでご利用ください。



声

ふるさと味まつりに参加して
下垣外北部
小澤由美子

3月1日に第1回ふるさと味まつりがありました。職業柄、食と健康に興味があり、今回、学ばせて頂き、周りの人達へのアドバイスも出来たら：と思いい、参加しました。

折りしも、今、長女が東京で一人暮らしをしながら学生をし、長男がこの4月から京都の大学に進学し一人暮らしを始めます。その子ども達へも食の大切さを教えられ、レパートリーも増えますし、さつそく知人と同じ班で楽しく調理実習し、その後、地元で採れた食材を創意工夫で調理した数々の出品作を拝見し試食しました。どれも素材の味を充分に生かし野菜や果物がアイディアによって素敵に変身してました。料理をするという行為は、五感を刺激し、手を使い脳の活性化にもなります。どの料理も、おいしく地産地消という言葉が頭に浮かんできました。なにより、料理を作った方々の頭の柔軟性と手先の器用さに敬服致しました。又、管理栄養士さんとのすてきな出会いも出来た、収穫のある午後のひとときでした。



大島愛莉さん



小木曾阿衣さん



倉園梨花さん



長谷部遥香さん



武田いち子さん

花となかよし 生け花教室

1年間がんばりました

公民館では4つの子ども向け講座を実施して
います。

平成20年度に実施した講座は、花となかよし・
茶道教室・押し花教室・キッズクッキングの4つ
です。

その中のひとつ、花となかよしの最終講座が3
月14日に開かれました。

花となかよしは、生け花やアレンジフラワーな
どを学ぶ教室です。20年度は8名の小学生が年間
11回にわたり受講してきました。最終日には5名
が出席し、生け花の作品を仕上げました。写真は、
この日受講生の皆さんが作り上げた作品です。

毎回、季節に合わせた作品を作り、それぞれで
きた作品は、各自持ち帰り、玄関や部屋などに飾
ることが出来ます。受講した子どもたちは、「持
ち帰ると家族がきれいだと喜んでくれる」、「クリ
スマスの時にはリースを作ることができてうれし
かった」など感想を述べていました。何年も連続
で受講する子どもたちもいるとの事で、とても魅
力がある講座となっています。

今年度も花となかよしをはじめ、茶道、押し花、
キッズクッキングの、4つの講座を引き続き実施
する予定となっています。いずれも休日を利用し
ての講座ですが、貴重な体験のできる時間であり
多くの受講生を募集しています。

新年度も
大勢
参加して
下さいね



私の今の職場では、地域へのポ
ランテアとして月1回朝少し
早く出勤し、事務所付近の道や土
手などのゴミ拾いなどを行って
います。

課ごとの場所は決まっている
ので、毎月同じ場所を拾います。
毎月拾っているのにゴミは減ら
ずに同じように沢山落ちていま
す。紙くず、空カン：一番多いの
がタバコの吸い殻。たまに少ない
ときもあるかなと思って歩き始
めてもやっぱりゴミは落ちてい
ます。普段生活の中で、道にゴミ
が落ちていても積極的に拾うこ
とまではできていないので、偉そ
うなことは言えませんが、こうい
う活動を通じてゴミのポイ捨て
だけはしないように気をつけたい
と思います。

ゴミを減らすのはもちろんで
すが、出ってしまったゴミは持ち帰っ
たりゴミ箱に捨てるように一人
一人が気をつけてきれいな住み
よい町になっていってほしいと
思います。(宮崎亜希子)

公民館報
「まつかわ」
第 546 号
平成21年4月15日
発行所 松川町公民館
責任者 塩澤三佳
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)